

おかだ耕一

後援会会報
No.27
2005.7.25

http://www.ko1.org/ E-mail:okada@ko1.org

発行/おかだ耕一後援会事務局

豊田市宝来町4-758-141

TEL/090-1752-7529 (番号通知のみ受信)



公私ともに充実 これからも頑張ります

今年も地域によっては渇水または、集中豪雨という異常気象で環境問題の重要性がますます認識されるこのごろですが、日ごろは議員活動、後援会活動に対し、格別なるご理解、ご支援を賜りありがとうございます。

さて、豊田市議会6月定例会は、6月9日から30日までの会期で、市税条例の改正や過疎地域自立促進計画の策定など重要な議案が審議され、その全てが可決されました。また、国会同様、ノーネクタイ、ノー上着のクールビズ・ファッションで省エネに協力しました。

今定例会では、新市になって初めての一般質問があり、藤岡地区の温泉開発問題、第2中学校の建設問題、足助地区の光ファイバー問題、旭地区の川の駅構想等、編入地区の多くの課題がテーマとなり、旧町村地区での議論の過程に問題を感じた議会でもありました。

それから、私事になりますが、わが家に家族が増えました。気持ちも新たに公私ともに充実した毎日を送っています。かわいいわが子のため、全市民のため、今まで以上に頑張っています。今後とも変わらぬ指導、ご鞭撻、よろしくお願い申し上げます。

豊田市議会議員 岡田耕一

おかだ耕一 平成17年度議会役職

- ・環境福祉委員会 委員
- ・議会運営委員会 委員
- ・議会活性化推進特別委員会 委員
- ・議会だより編集委員会 委員
- ・市議会図書等活用委員会 委員
- ・豊田三好事務組合議会 議員

5月臨時会、6月定例会におきましてこれらに選任されました。今年1年頑張っています。

とよた市民の会 無料法律相談のご案内 ※8月はお休みです。

開催日 / 9月10日(土)・10月8日(土)・11月12日(土)・12月10日(土)

時間 / いずれも午後1時30分～3時

場所 / 豊田産業文化センター4階にて

お問合せ 豊田市議会議員

おかだ耕一 090-1752-7529

弁護士に無料で相談できます。予約制ではありませんので、しばらくお待ちいただくことがあります。ご了承下さい。あわせて、行政相談も実施しておりますのでお気軽にお越し下さい。

とよた市民の会 市民講座のお知らせ「小児医療の問題を考える」

市政改革とよた市民の会(代表:おかだ耕一議員)が福祉と医療のあり方を考える市民講座「第2期の3回目「(仮称)小児医療の問題点とあるべき姿～現役小児科医からの提起」を開催いたします。講師は、岩瀬小児科院長の岩瀬勝彦先生。

とくに小児医療(医師)の教育体制、小児専門医の不足問題、どのように小児科を選ぶべきか、他では聞けないお話も聞けそうです。多くの皆様のご来場をお待ちしております。



と き:10月2日(日)13時30分より
と ころ:豊田産業文化センター第41会議室
講 師:岩瀬小児科院長 岩瀬勝彦先生
資料代:300円

小林おさむの ちよっと一言



靖国問題によせて…戦後外交の失敗

戦後のわが国の経済復興に関して、「安全保障の問題を、‘核の傘’に入ることによって、たまたまアメリカに任せ、経済力の蓄積のみに専念してきたことは、極めて賢明であった」と、吉田茂首相を源とする保守本流＝自民党外交を評価する論調がある。私も、そうした外交を可能にしたのは平和憲法であるから、この評価は一概に否定できないと考えてきた。

だが、そうした外交で済ませることができたのは、わが国がアメリカの属国である限りであった。国連の安保理の常任理事国、つまり国際社会のリーダーになろうとした途端に、その外交路線は破綻した。最も大切な隣国である中国と韓国から、リーダーにふさわしくないと指弾されたのである。先の世界大戦で、侵略した国とされた国であるドイツとフランスとの緊密な関係と、日中のギクシャクした関係とを比較

すれば、わが国が、いかに隣国との関係改善において無為無策であったが分かる。ただ、経済力に任せて金をばら撒いたことを除いて。

日中国交回復の際、周恩来首相は、「中国人民も日本人も、かつての日本の一部軍国主義者の共通の犠牲者である」と言明し、それを田中角栄首相もわが国世論もこぞって歓迎した。ここに、中国の対日外交が、「一部の軍国主義者」の責任にこだわる根拠があり、小泉首相の靖国参拝を黙過できない所以でもある。

靖国問題の考え方については、最近ベストセラーに名を連ねている高橋哲哉著「靖国問題」(ちくま新書)の緻密な論述に譲りたいが、小泉首相の一連の言動は、こうした中国や韓国の立場を知り尽くした上で、あえて隣国を挑発して、わが国民のナショナリズムを煽っているように思われてならない。

軽薄なナショナリストにならないための努力が必要な時代を迎えている。

(元愛知県議会議員 小林おさむ)

おかだ耕一の ひとり言

6月議会では、一般質問の会派割り当て時間の関係でおかだ耕一議員には質問時間がありませんでした。この号では特別編として「おかだ耕一のひとり言」を掲載します。これは、おかだ耕一議員のウェブサイトの日記から抜粋し、一部加筆したものです。おかだ議員の活動の様子、市議会の審議内容、それらに対するおかだ議員の意見も述べられています。

平成17(2005)年4月18日(月)

昨日、「鞍ヶ池公園の道路が通行止めになっているにもかかわらず、途中まで何の表示もない」との情報を得ていたため、朝、現地を確認。そこで管理業者の方と話をしていると、10分程度の間公園方面へ2台の車両が通り抜けようとしていた。1日、現地にいれば相当な数だろう。そして、GWも近い。苦情が殺到する前に何とかしたい。その後、公園課へ出向き、早急に適切な場所に看板を出すよう依頼する。現状を知らなかったようで公園担当専門監から、すぐ対処するとの確約を得る。道路としては、今後、鞍ヶ池公園の2期工事以降も通れない予定だそうだ。



通行止めになっている道路

4月27日(水) サッカーを煽っておきながら...

先日から相談を受けていた方と10時に会い、事情の確認と今後のことについて話し合う。私は、5月に予定している無料法律相談をお勧めする。午後、広川台小学校の校長先生から電話が入り、先日、要望していた件の回答を聞く。その要望事項とは「今まで学校開放で体育館でのフットサル利用が許可されていたのが、されなくなった。何とかして欲しい」というもの。校長先生も再度確認してくれたのだが、学校体育館は、そのように作られていないのでお断りするようになったとか。教育委員会のスポーツ課にも学校体育館でのフットサル利用の現状を確認するとすべての学校で現在はお断りしているとのこと。経費の割には有効利用しきれていない巨大なスタジアムをつくり、サッカー、サッカーと煽っておきながら、こうした対応は非常に寂しい。少なくとも地域体育館ではフットサルの利用ができるように改善要望した。

4月30日(土) 保護者と教師の適切な関係は?

10時40分からのPTA総会のために地元の小学校をちょっと早めに訪れ、親御さんとともに授業を参観。その後、PTA総会に。総会のあいさつで校長先生が繰り返し、「当校は素晴らしいスタッフ」ということを強調されるとともに「批判的ではなく温かく見守って欲しい」という趣旨の話に私は心配になった。当然児童の前では教員への批判はすべきではないが、教員、保護者ともお互いにしっかり言うべきところは、言うべきではないだろうか。

涼しくなり始めた16時頃から18時過ぎまで五ヶ丘6、8丁目まで会報ポスティング。

5月8日(日) NPO法人の開所式にて

15時30分から、NPO法人の開所式に地元の神谷議員や障害福祉課長らとともに出席。この団体は、1998年から任意団体の知的障がい者の自立を支援する会として活動され、2003年には基準該当居宅支援事業所の許可を受け、

デイサービスをスタート。2004年にはホームヘルプサービスもスタートさせるなど積極的に事業展開されていた。そして、今年4月に特定非営利法人として認められ、新たなスタートを切った。開所式後の記念講演も聞く。講師は半田市で通所授産施設アートスクウェアの施設長をされている加藤恵さんで27歳という若さながら非常に高い見識と想いを持っていらっしゃる方。今日は、事業者としての役割や心構えの講演であったが、考えさせられる中身であった。講演終了後、「機会があれば私たちの会でも講師を」とのお願いにご快諾いただく。

5月10日(火) 神谷学安城市長を囲んで

午後から東海若手市議会議員の会研修会。会場は安城市のデンパーク。まず、神谷学安城市長との懇談会。30分ほど、議員になったきっかけ、その後の活動等のお話をいただく。彼は28歳で初当選され、4期目に議長を経て、現職との選挙を勝ち抜かれて市長になられた。その経験をもとにいろいろなアドバイスをいただく。質疑に対しても丁寧にお答えいただく。市長退席後は、「民間委託(幼稚園も含め)について」討議。これは私からお願いしたテーマで、豊田市では4月から2つの幼稚園が民間に移管されたが、他市の事例を本市に活かしたいと思い、テーマに挙げた。他の自治体の実態を聞くと、前提として市立幼稚園がないところも多数あり、また、保育園の移管はあるが、幼稚園の事例がないことが残念だった。幼稚園と保育園の一元化問題や教育、保育の質の問題等、様々な角度で有意義な討議ができた。私は幼稚園の移管については反対ではない。ただ、あまりに性急にことを進めるのではなく、まずこの2園の状況を見守ってから進めていくべきだと思っている。



神谷学安城市長

その後、自治体事例報告とし蒲郡市の「観光交流都市宣言」について同市の来本議員から説明いただく。かつて観光地として強い人気のあった蒲郡市も昨今の低迷に危機感を抱き、『市民の市民による市民のための「観光交流都市」育て』を基本目標にあげ取り組むとのこと。わが新豊田市も合併により非常に魅力ある観光地を抱えることになった。私自身これからの観光行政もしっかり勉強せねばと痛感した。その後、デンパークの概要説明と園内視察。当初計画は25haだったが、13.1haに。平成15年度の市からの委託料、人件費補助金等の持ち出し額は3億8,700万円。これをどのように評価するかは難しい。18時過ぎからの懇親会では、再び、神谷市長も同席いただき、おいしい料理と共に市長とも多くの話ができて、有意義な研修であった。

5月13日(金) 数々の不法投棄現場

午前中は、まず、鞍ヶ池公園管理道路に看板を設置したとの報告を受けたので現地を見に行く。その後、池田町の交通安全教育施設予定地にも。そして、手呂団地隣に

産廃が不法投棄されている現場を視察。引き続き、藤沢町に大量の廃タイヤが不適正処理されている状況も確認。

12時半ごろから友人2人とランチミーティング。地域課題、教育問題など多方面にわたり語り合う。食事中、篠田代表から「東和の産廃を代執行するという情報が入ったのですぐ戻るように」と言われ控室に。14時30分頃から環境部から新政クラブに対して説明があった。旧思政クラブには説明してわが会派には当初、説明する気すらなかったようだ。けしからん。内容は、代執行も見据えて元社長の資産を仮差し押さえたというもの。それ自体は悪いことではないが、代執行ありきでは納得できない。それこそ、周辺地域に生活上の支障がないのであれば、そのまま放置し、環境万博である愛・地球博のサテライト会場として市の管理・指導が行き届かなかった過剰保管・不法投棄の現場を全国の皆さんに見てもらうべきだろう。ただ、会派の仲間である外山さんが実施したダイオキシン等の調査結果をみるとそうも言えない。



新設された案内看板



手呂団地隣の不法投棄現場

そして、昨日、依頼した豊田市内での産廃の過剰保管、不法投棄の状況の報告を受ける。旧市内では、不法投棄現場は7カ所確認。旧町村での不法投棄の確認箇所は、藤岡10、足助4、稲武2という状況。

5月27日(金)

10時頃、総合企画部専門監から足助の情報基盤整備事業負担金返還を住民から求められている件について説明があった。私は、住民感情はよく理解できるが、現豊田市長に返還を求めるのも…。個人的には、当時の足助町長と町議にしっかり責任を取ってもらいたいという気持ちである。10時半頃から会派会議。各派代表者会議での内容を聞く。14時から伏見でのダイオキシン・処分場問題愛知ネットの定例会に。各地の報告と会費負担のあり方も協議。17時過ぎには終了。18時過ぎに豊田に戻り、知り合いの店舗2カ所とユートピア若宮の会へ「1リットルの涙」上映会のポスター貼付、前売りチケット取り扱いをお願いに。

5月30日(月) PCB処理施設の破損事故

10時30分から豊田三好事務組合の事業説明会。組合規約、17年度重点目標、当初予算の概要について説明を受ける。私からは、「18年3月いっぱい閉鎖される勘八最終処分場の水処理施設の今後の運営」、「古瀬間火葬場のダイオキシン対策と測定」、「組合議会議員の報酬(月額5,500円)のあり方」などについて質問する。

午後、環境保全課に「細谷町のPCB廃棄物処理施設の設備のテスト中に供給タンクが破損した事故」で質問と苦言。なぜ、4月25日の事故が5月13日まで報告がなかったのかと。事業主体の日本環境安全事業(株)の問題意識の低さを再確認。今後、些細なトラブルでも報告するよう市がしっかり監督するよう要望した。そして、現在建設中の新清掃工場でも同様に要望。教育委員会保健給食課には、



タンクの破損状況

5月臨時会の委員会質疑で答弁のあった「古い給食用強化磁器製食器は公共施設で一部利用し、残ったものは廃棄物として処分する」ことについて「産廃となる食器の有効利用をもっとすすめるため、自治区、自主団体への積極的なPRや市ウェブサイトでの譲渡PRをするように」要望する。「今後、検討する」と言うので時期をみて再度確認することを伝える。高齢福祉課には、「18年3月で愛知県勘八峡老人福祉館が閉館すること」について、豊田市の今後の対応を聞く。「県は地元移管の方向なので具体的に話が来れば今後検討する」ということだった。

5月31日(火) どうなる指定管理者制度

特定非営利活動法人 市民フォーラム21・NPOセンター主催の「自治体職員・地方議会議員のための指定管理者制度導入セミナー」を10時から16時まで受講。朝、会場では、TIA(豊田市国際交流協会)のボランティア時代にお世話になったブイ・チ・トルンさんと久しぶりの再会。事前に名簿で私の名前も見つけていたと。現在、氏は愛知淑徳大学・大学院文化創造研究科教授の傍ら当センターの代表理事も務められる。「指定管理者制度」とは、多様化する住民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため、市の施設管理に民間の能力を活用し、住民サービス向上を図るとともに、経費の削減等を図ることを目的としている。この指定管理者制度では、営利企業のほか、社会福祉法人などの公益法人、NPO法人や法人格を持たない団体に対しても管理を行わせることができる。

最後の総括質疑では私から「合併町村の合併前に議決した指定管理者に対する新市のスタンス」、「原則公募というなかでなかなか公募をしない市に対する働きかけ」について質問。いずれも議会の多数派のあり方の問題まで行き着いた。今回も受講費8,000円を政務調査費で支出したが、こうした有意義なセミナーが東京や大阪方面だけでなく、地元でもっと多く開催されれば、より有効に政務調査費を使うことができるのだが。

6月1日(水) 他市で進む市民参画のアイディア

16時から2時間ほど、友人と情報交換。「市民が申請で意思表示した市民税納税額の1%を自らが指定したNPOなどに交付する制度」を創設した千葉県市川市や市民との協働によるまちづくりを推進するため、「まちづくりパートナーズ基金」を創設した高浜市を自費で視察するなど、彼は、住民の政治参画を真剣に考えている。豊田市でも同様の条例制定の考えはないか、私にも意見を求めた。

市川市では、多くの団体が活動支援を求めるとともに5,000人強の市民も意思表示をしたという。高浜市の基金は、個人市民税の1%に相当する額と市民からの寄附金を基金に積み立て、NPO法人の設立支援事業や市民公益活動を担う人材を育成するための事業、市と市民が協働して実施する事業などの財源として活用する予定。しかし現在、NPOが2団体しかないとのこと。それでも市の意気込みは感じる。埼玉県志木市では、個人市民税の1%をアンケート調査を通じて市民が支持した事業に配分する制度を条例化する予定であったが、議会で否決されたのか、実現されなかったという。私も今年度中にこれらの制度を学ぶべく、各自治体へ視察に行く予定であったが、彼から有意義な話を聞いたので、若干、時期をおき、実績についてのデータ収集をするつもりだ。

6月14日(火) 解決が長引く藤岡第2中学校問題

9時から議会運営委員会。追加議案1件。その後、議会だより編集委員会。10時からは本会議。一般質問3日目。大きな問題として藤岡第2中学校問題も。質問および答弁を聞いていると、いかに旧藤岡町および町議会がこの問題に対して甘い対応をしてきたか分かる。前町長及び前町議に対して無駄な用地を購入した責任追及をしたいものだ。しかし、藤岡中がマンモス校化し遠距離通学を余儀なくされて現在、困っている多くの中学生、そして、入学予定の子どもたちのことを考えると、今すぐにも井郷中および猿投中への暫定通学を認めるべきと考える。個人的には自治区、保護者らが認めるのであれば、暫定と言わず、旧市町の境界にこだわらない校区を考えてもらいたい。

6月18日(土)

午前中に八草町の方に映画会のチケットを届けた。その後、身重の妻とともに矢作ダム(奥矢作湖)と旭高原元気村に。「気分転換に」と言いながら実際は、矢作ダムの貯水量のチェックと元気村の状況を確認したかったからに他ならないのだが。それにしても矢作ダムは危機的状況。いよいよ妻も臨月を迎えた。わが家にも新しい家族が増えることを望しつつ、今日に至っているのだが、山道は結構つらかったらしく、申し訳ないことをした。



40%を切った矢作ダムの貯水量

6月23日(木) フェロシルトって何?

10時から、私が所属する環境福祉委員会。付託案件は1件。私は審議会がしっかりと機能するようにという趣旨で質問。また、委員会に引き続き開催された重点目標説明会で、いくつかの質問をした。そのなかで、本来であれば大問題であろう項目が入っていないのではないかと質問。しかし、委員長や先輩議員から、項目にないものは質問すべきではないと。結局、委員長判断で答弁はもらった。

その質問とは、愛知ネットで問題解決に取り組んでいる「フェロシルトの問題」。フェロシルトとは、三重県内の工場が、酸化チタン精製で生じる廃棄物を中和した製品で、成分の大半は鉄と石こう。酸化チタンの原料の鉱石イルミナイトに起因する放射線も含まれている。藤岡地区にもこのフェロシルトが山積みになされているという情報が私のもとに入っていたのだ。そこで、「市はこの件を把握しているのか」、「把握しているとしたらどのように対処するのか」と質問。環境部は「把握している」、「現在メーカー側が撤去に向けて調整している」と答弁。一安心であるが、なぜこうした大問題を我々議員に情報提供しないのか、不思議でならない。またしても隠蔽体質が浮き彫りに。

6月27日(月) 大学のゼミにて

15時30分から約2時間、愛知学泉大学において、とよた市民の会の小林おさむ事務局長、小笠原輝美副代表とともにコミュニティ政策学部のゼミ生約10名に対して話をした。学泉大の学生に話をするのは今回が2回目で、前は議員活動や議会の仕組みについてだったが、今回は、コミュニティ運営実習という授業において、市民グループの立場から話をしてほしいと依頼があった。

テーマが、①とよた市民の会の設立の経緯と活動状況②産廃処理行政に対する評価③産廃処分場設置に関わる住民同意制の問題で、私からは、②について40分程度話をした。学生たちの理解の手助けになったかはわからないが、こうした機会を与えていただいたことにより、私自身の理解の再確認と問題に対する整理ができて良かった。機会があれば、大学に限らず、テーマにこだわらず、私がお話できることであれば、対応しますのでご連絡ください。

7月5日(火) フェロシルトの現地視察

午後から藤岡地区、深見町のフェロシルトの現地を視察する。投棄現場は深見町下田と深見町岩花の2カ所。休耕地でひまわりが栽培されていると新聞報道されたところの隣接地。はじめはどこにフェロシルトがあるのか分からなかったが、山全体に埋まっている状態だった。いったいどのくらいの量になるのか。



フェロシルトの山 深見町下田

7月7日(木) 新聞報道があったから?

午後からフェロシルト問題に継続して取り組んでおられる方と深見町のフェロシルトの現地へ放射能測定に行く。ガイガーカウンターという放射線検知器で測定。フェロシルトが大きく露出している斜面の一番高い所の地表では、最高値が0.46マイクロシーベルト(μSv)/h、下の道路で1メートルの高さで測定すると0.14 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ 。日本の法律の線量限度は1Sv/年なのでガイガーカウンターの数値が時間当たりなので0.114 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ が限度となる。今日の測定値は最大約4倍の放射能が検出されたことになる。

夕方、やっと廃棄物対策課から議会に対して「藤岡地区のフェロシルトについて」資料提供があった。内容は、経過と今後について。『市は、6月13日に製造業者である石原産業とともに現地調査をし、石原産業が埋め戻し材を分析した結果、フェロシルトであることが判明。石原産業は、フェロシルトの埋設量や埋め立て区域などを調査した上で、回収計画を作成し、自主回収することを約束。豊田市深見町下田では地元説明後、近々回収に着手の予定。深見町岩花では地権者の同意を得た後、調査を開始する予定』とのこと。



ガイガーカウンターで測定

おかだ耕一を支えるカンパは下記へお願いいたします

UFJ銀行 豊田支店(普通) 1113815 岡田耕一後援会

カンパいただいた方は通帳にはお名前しか表示されません。お礼を申し上げたいため、ご一報下さるようお願い致します。

おかだ耕一後援会としては、おかだ耕一議員の考え、活動に賛同いただき、1,000円から1万円くらいの浄財を広くいただくことができましたらありがたいと思っています。※政治資金規正法により、おかだ耕一後援会は、企業・労働組合等の団体からの寄付は受けられません。

市政に関する様々な疑問、質問、要望、情報等お気軽にお寄せください。

TEL/090-1752-7529

(こーいち)

http://www.ko1.org/

FAX/88-9194

E-mail:okada@ko1.org

100%古紙再生紙を使用しています。